

第 部 調査結果の総括

．調査の目的と調査内容

1．調査の目的

大都市交通センサスは、首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における鉄道、バス等の大量輸送交通機関を対象にその利用の実態等について実態調査を行い、公共交通政策を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施している交通統計調査である。

平成 12 年には第 9 回目の調査を実施し、平成 12 年度、13 年度の 2 ヶ年にかけて、調査データの集計と精査、マスターデータの作成及び分析を行い、平成 13 年度末にその調査結果をとりまとめた。

本調査は、平成 12、13 年度調査のフォローアップとして実施するものであり、その調査目的は次の通りである。

第 1 には、昨年度調査で残された検討課題に対する詳細な解析や、大都市交通センサス以外の交通調査データを用いたクロス分析など、センサスデータの解析の深度化を図るとともに、センサスデータの精度の検証やデータ特性について明らかにする。

第 2 には、大都市交通センサスのマスターデータと、新たに実施した「鉄道輸送サービス調査」の調査結果を用いて混雑状況の推計を行い、きめ細かな公共交通改善施策の検討を進めるためのデータを提供する。

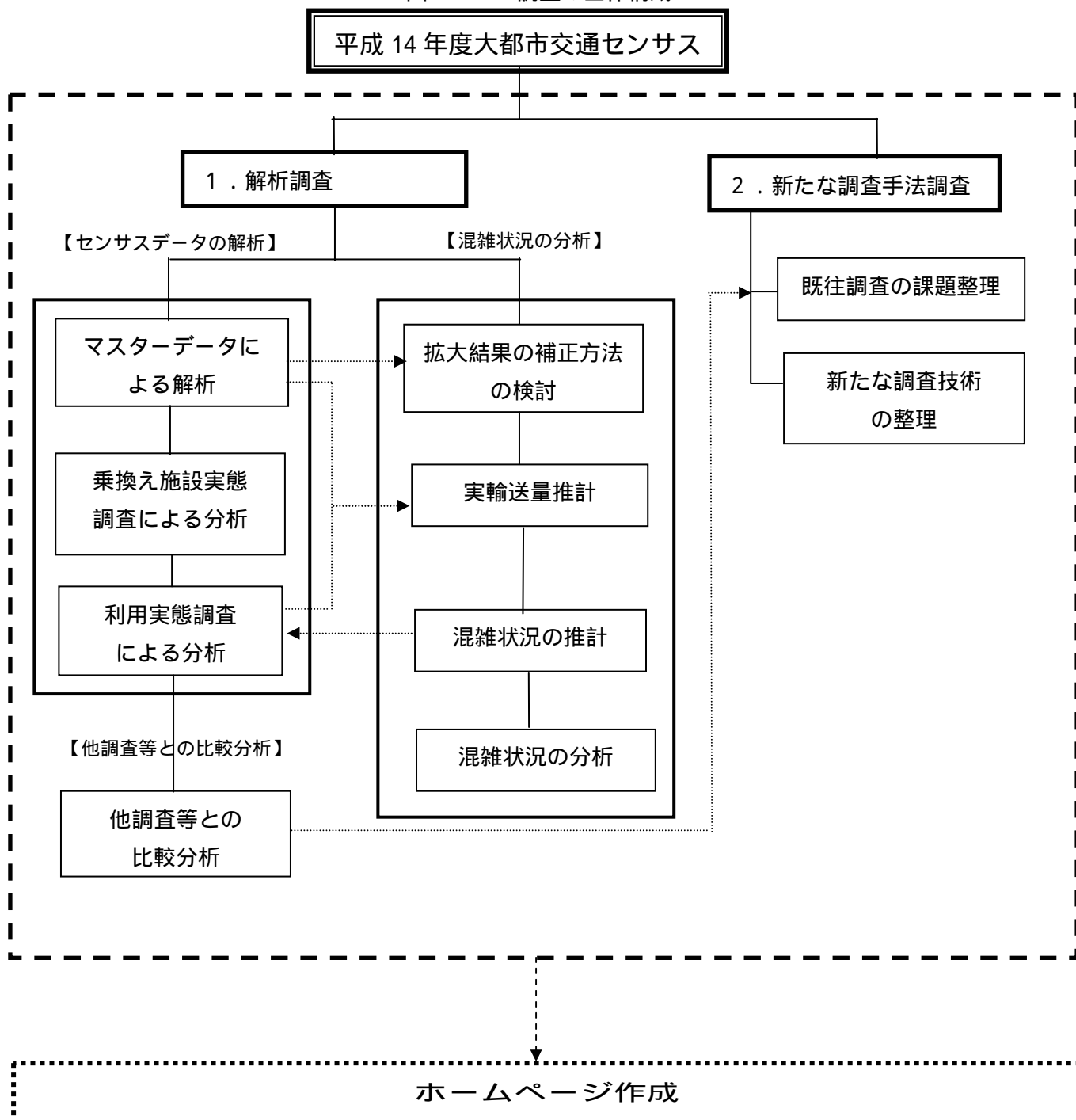
第 3 には、調査課題や調査環境の変化などから、これまでの調査手法は限界にきていることが指摘されており、次回以降の実施を目標に新たなセンサス調査のあり方について検討する。

2. 調査の全体構成

調査の目的を踏まえ、本調査は大きく2つの項目に分けて実施するものとする。調査の全体構成は次に示すとおりである。

なお、各調査で得られた資料や成果については、他の調査の検討にも利用される。

図 - 1 調査の全体構成



3 . 調査の内容

3 - 1 解析調査

(1) センサデータの解析

昨年度調査で残された分析課題や、新たな調査課題について、大都市交通センサスのマスターデータ及び平成 12 年度に大都市交通センサスと同時期に実施された鉄道・バス利用実態調査等の関連調査のデータを用いて解析を行う。

マスターデータを用いた解析

関連調査データを用いた分析

(2) 他調査等との比較分析

既存の交通調査データとの類似する調査項目について比較分析により、大都市交通センサスデータの精度の検証、データの特徴を把握・分析する。

国勢調査との比較分析

P T (パーソントリップ) 調査 (東京、京阪神) との比較分析

都市交通年報との比較分析

(3) 混雑状況の分析

平成 12 年大都市交通センサスでは、新たな調査として「鉄道輸送サービス実態調査」を実施し、時間帯別駅間輸送力を集計している。この調査成果を活用し、路線ごとの混雑状況の把握・分析を行う。

時間帯別路線別混雑状況の推計

大都市交通センサスで集計した時間帯別路線別駅間輸送量と時間帯別路線別駅間輸送力データを用いて、時間帯別路線別混雑状況を推計する。

- ・ 拡大データの補正方法の検討
- ・ 時間帯別路線別駅間断面交通量の補正
- ・ 時間帯別路線別混雑状況の推計

混雑状況の分析

時間帯別路線別混雑状況の推計結果をもとに、各鉄道路線の混雑状況について分析する。

- ・ 混雑時間帯、混雑区間の分析

(4) ホームページの作成

センサデータの認知や利用を高めるために、ホームページを作成する。

(5) 成果物について

本調査における成果物は以下に示す通りである。

報告書

テクニカルレポート

公表用パンフレット

インターネット用資料

3 - 2 新たな調査手法に関する調査

定期券利用割合の低下等、大都市交通センサスを取り巻く調査環境の変化により、調査方法についての見直しの必要性が高まっている。調査の省力化の必要性や、調査ニーズの変化等も踏まえ、次回調査以降での実施を目標とした新技術を活用した新たな調査方法について検討する。

(1) 既往の都市交通統計調査の課題整理

既往の都市交通統計調査の概要整理

既往の都市交通統計調査の概要を整理し、データの整合性や補完性などについて検討する。

(例．国勢調査、P T調査、道路交通センサス、都市OD調査、大都市交通センサスなど)

都市交通調査ニーズの把握

都市交通需要の変化を踏まえ、既存資料及び行政や交通事業者へのヒアリング・アンケートなどにより、今後の都市交通調査ニーズを把握する。

既往調査の課題の抽出

上記の検討を踏まえ、既往の交通調査の課題並びに大都市交通センサスの課題を整理する。

(2) 新たな調査技術の整理

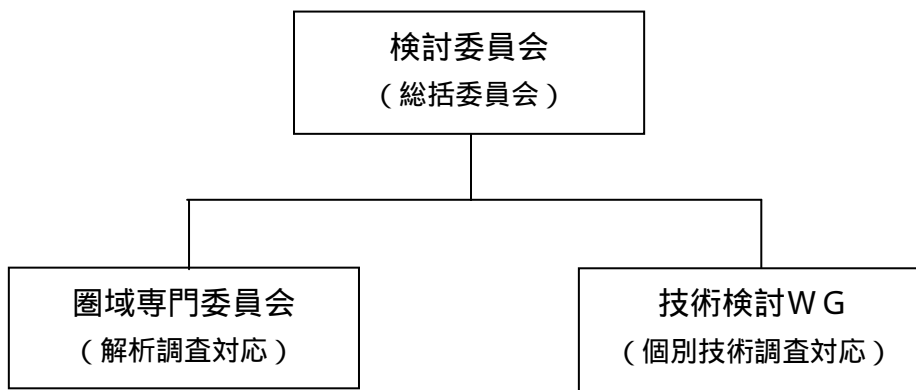
調査の省力化や精度の向上に対しては、自動改札機や自動定期券発券機、バスカードシステム等の電子機器から収集可能なデータの活用が有効と考えられる。

これら電子機器によるデータの捕捉内容について整理し、大都市交通センサスのデータとしての活用の可能性を検討する。

4. 調査の体制

本調査の調査体制は次の通りとする。

図 - 2 調査の体制



(1) 検討委員会

- ・ 全体のとりまとめを行う。(年3回開催)
- ・ 委員構成：委員名簿参照

(2) 圏域専門委員会

- ・ 首都圏・中京圏・近畿圏の各圏域単位に設置
- ・ 主に解析調査成果について検討する。(年3回開催)
- ・ 委員構成：委員名簿参照

(3) 技術検討WG

- ・ 個別の技術的課題について検討する。(月1回程度開催)
 - 混雑状況推計方法の検討
 - 新たな調査手法の検討
- ・ 委員構成：ワーキング名簿参照

5. 調査のスケジュール

本調査のスケジュールは次のとおりとする。

調査項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 解析調査 (1) センサデータの解析 (2) 他調査等との比較分析 (3) 混雑状況の分析	調査方針の検討	センサデータの分析		関連調査データの分析			とりまとめ・HP作成			
		他調査等との比較分析								
2. 新たな調査手法に関する調査		拡大データの補正方法検討		交通量の補正		混雑状況の推計		混雑状況の分析		
		都市交通統計調査の課題整理			新たな調査技術の整理					
検討委員会		(7/9) (第1回)						(1/7) (第2回)		(3/28) (第3回)
圏域専門委員会			(7/23,25) (第1回)				(12/12,13,20) (第2回)			(3/10,13,18) (第3回)
技術検討ワーキング		← 適宜(月1回程度) →								